

平成25年度

長野県家庭科，技術・家庭科教育研究会 中信地区研究大会

家庭科学習指導案

〈長野県家庭科，技術・家庭科教育研究会テーマ〉

一人一人が拓く家庭科，技術・家庭科の学習

〈明南小学校家庭科研究グループ 研究テーマ〉

生活に必要な基礎的な知識・技能を身につけ，家族の一員として生活の中で生かすことができる家庭科学習
～互いの良さを実感し，伝え合う授業を目指して～



授業日時	平成25年11月15日（金）
指導者	総合教育センター 教科教育部 専門主事 宮澤陽子先生
題材名	B 日常の食事と調理の基礎 「自分のオリジナル味噌汁を作って家族に食べてもらおう！」
授業学級	5年2組 27名（男子15名 女子12名）
授業者	岡村浩男 教諭
授業会場	明南小学校 家庭科室

安曇野市立 明南小学校

目次

I	グランドデザイン	2
II	研究テーマ	3
III	研究テーマ設定の理由	3
IV	研究の内容	4
	1 目指す子どもの姿の具体	
	2 研究の方向	
V	学習指導案	6
	1 題材名	
	2 題材設定の理由	
	3 題材の目標と評価規準	
	4 指導上の留意点	
	5 題材展開の概要	
	6 本時案	
	(1) 主眼	
	(2) 本時の位置	
	(3) 指導上の留意点	
	(4) 展開	
	(5) 実証の観点	

校長の願い

【「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな児童の育成】
 ○生活習慣の確立と、基礎的・基本的な学力の定着をしていきます。
 ○コミュニケーション活動を重視しながら、「できた、わかったを実感できる授業」に努めていきます。
【誰にも居場所があり安全な学校】
 ○自分の持てる力を発揮できる場の醸成をしていきます。

教科・道徳・総合的な学習・特別活動等の重点

【平成25年度全校研究テーマ】
『できた わかったという喜びを感じる授業の創造』
 重点として、一人ひとりが、主体的に思考したり、判断したりして、それを伝え合い、認め合うことで、自分のよさを感じたり、より豊かにふくらめたりしながら、できた・わかったという喜びを感じる学習指導をします。

【今年度重点として取り組む3教科】
 《理科》 身近な自然と関わる中で、児童の発見を大切に、自然への興味・関心を高めます。
 《家庭科》 生活に必要な基礎的な知識・技能を身につけ、家族の一員として生活の中で生かします。
 《体育》 スポーツテストを実施し、持久走や縄跳び等により体力の向上を図ります。

【生活科】 【総合的な学習の時間】＝**明南タイム**
 水辺の楽校、森の校庭、保育園、大豆の栽培、ふきぼの家との交流等、地域とつながる活動を大切に課題解決力を育てます。

【外国語活動・国際理解教育】
 身近な英語に慣れ親しみ、コミュニケーションをする楽しさや喜びを味わえるようにALTの先生と連携して授業を進めます。

【道徳】
 友と語り合う中で道徳的価値を子ども自ら獲得し、実践にうつしていくとする意識がもてるようにします。

【特別活動】
 集団活動を通して、話し合ったり工夫したりしながら、仲間と協力して学校生活を送れるようにします。

【児童会】
 ・大目標…「心ポカポカ 笑顔あふれる 楽しい学校に」
 ・具体目標…「あいさつ」「そうじ」「ろうか歩行」「やさしい言葉づかい」
 児童会の目標が達成できるように支援していきます。

【人権教育】
 自分を大切にし、友だちと自分との違いを認め、互いに支え合い、友だちの気持ちを大切にしながら、自分の気持ちを表現できるようにします。

【特別支援教育】
 校内委員会を中心とした支援、個のニーズに応じて小集団や個別の学習、交流及び共同学習を進めていきます。

学校教育目標

夢をゆたかに 未来をになう子ども

◇ かしこく ◇ やさしく ◇ たくましく

PLAN →

具体目標

DO ↓

(かしこく) よく聞き、考え、進んで伝えよう

(やさしく) 自分から、あいさつや温かい言葉をとだけよう

(たくましく) そろそろ運動あそびで、心と体をきえよう

保護者・地域の願い

【H24年度保護者アンケートから】
 ・同学年や異学年の子どもと仲良く、楽しい学校生活を送ってほしい。
 ・一人ひとりの子どもをよく見て、熱心に指導してくれているので、引き続きお願いしたい。
 ・話を聞く、書く、自分の考えや気持ちを相手に伝える力など、確かな学力を身につけてほしい。
 ・明るく元気な挨拶が自分からできる子になってほしい。
 ・地域の豊かな自然や人から学んでほしい。
 ・災害、交通、防犯、暑さ等の対策をして、子どもたちの安全や健康を守りたい。
【学校評価計画】
 ・保護者アンケート（2学期末）
 ・明科地域教育協議会（年2回）
 ・民生児童委員との懇談（1学期）、授業参観（2学期）

家庭・地域・諸機関との連携

【安全教育】
 ・保護者への引き渡し訓練を行い、災害に備えます。
 ・不審者情報等についてメール配信システムを活用します。
 ・保護者による防犯パトロールと共に、学年毎の集団下校や下校指導を行います。
 ・交通安全教室、避難訓練、防犯教室を実施し、自分の命は自分で守れるように指導します。

【健康教育・食育】
 ・一人ひとりが健康目標を持ち、自分から進んで体にいいことが続けられるような健康づくりを行います。
 ・けがを未然に防ぐことができるよう学校保健委員会、児童会保健委員会を通して活動を進めます。
 ・児童会給食委員会の活動を通じてマナー向上を目指し、保健だより等を通して食育の情報を発信します。

【児童理解・生徒指導】
 ・悩みは一人で抱え込まず、気軽にスクールカウンセラーと相談ができます。
 ・医療・福祉・保健等に関する内容は、専門家からの支援を受けながら進めます。
 ・年2回、子どもたちへできた・わかったアンケートを行い、良好な人間関係と楽しい学校生活を送れるように生かします。

【その他】
 ・学校・学年・学級便り等を通して、子どもたちの様子や学校の取組を積極的に発信します。
 ・教科ばかりでなく、人権教育や情報教育等の授業公開を行います。日常的な学校公開も行っています。
 ・読書ボランティア、クラブ活動、教科学習等、保護者や地域の方の学習活動への参画を積極的に進めます。
 ・放課後子ども教室「わいっわいランド」、放課後学習室、児童クラブへの参加を支援します。
 ・自主学習を取り入れ、家庭学習でも主体的に学ぶ姿勢が身につくように支援します。
 ・保育園や明科三校で連携を図り、子どもたちの教育を進めます。

学校教育目標具現に向けた重点課題【三つの柱】

柱1 できた、わかった を実感できる授業

○子どもたちが「互いの思いや考えを伝え合い、認め合う授業」をめざし、授業改善に取り組めます。

○一人一公開授業・授業参観を行い、教師の力量を向上します。「ねらいを明確にする」「めりはりを付ける」「達成を見とどける」

○チームテイング（複数教員）により、児童の実態に応じた指導を行います。

柱2 特色ある 教育課程

○朝の10分間「ことばの時間」を設け、全校で言語力の向上に励みます。「読書」「読み聞かせ」「視写」「音読・暗唱」「漢字練習」

○水辺の楽校・5ヶ用水・明科水産試験場等の地域を生かした体験学習、保育園・大豆作り・ふきぼの家等地域の人たちとの交流活動を進めます。

○全校運動等でCODEの運動や相撲等多様な運動経験をしながら体づくりに励みます。

柱3 自ら築く 楽しい活動

○子どもたちの自主的主体的な取組を応援します。「おはよう隊」「明南まつり」「仲良し集会」「友達タイム」「プチ運動会」「仲良し給食・読書」

○あおぞらキッズ（全校異年齢集団）で運動遊び等をして、全校が仲良くなります。

○学級活動、クラブ活動、課外活動の金管バンド部・陸上競技部等で、一人ひとりのやる気や能力を伸ばします。

各学年の目標・重点

- 【1年】 話す人を見て、最後まで聞きます。自分にも人にも、やさしくします。外でいっぱい遊びます。
- 【2年】 聞き落とさないように聞き、進んで話します。ポカポカ言葉をたくさん使います。体を動かして遊びます。
- 【3年】 自分で考えてやってみます。たくさん伝えて、たくさん聞きます。いろいろなことに挑戦します。
- 【4年】 よく聞き、進んで話します。あいさつをし、さんくんで呼びます。そうじを精一杯やります。
- 【5年】 自分の考えや思いを伝えます。仲間を大切に、協力します。何でも食べ、体を使って活動します。
- 【6年】 自分の考えをもち、伝えます。気持ちよい挨拶、さんくんで呼びます。何でも食べ元気よく活動します。
- 【あやめ】 勉強を最後までがんばります。自分も友達も大切にします。明るい元気なあいさつをします。
- 【たんぽぽ】 気持ちを言葉で伝え、笑顔で挨拶します。ねばり強く学習します。友達を思いやり仲良く生活します。

↑ ACTION

← CHECK

II 研究テーマ

生活に必要な基礎的な知識・技能を身につけ、家族の一員として生活の中で生かすことができる家庭科学習

～互いの良さを実感し 伝え合う授業を目指して～

III 研究テーマ設定の理由

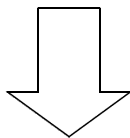
全校研究テーマ

『できた わかったという喜びを感じる授業の創造』

～児童が互いの思いや考えを伝え合い、認め合う授業を目指して～

明南小学校の児童の課題として「表現力の乏しさ、感想を伝えることが苦手」なことがあげられる。友だちから自分の意見や考え、作品に対する良さを認めてもらえれば、自信や喜びが生まれ、次への意欲やステップへとつながる。しかし、そのような経験が乏しいため、自信をもって、次へのステップへいくことになかなかつながらない。

表現する力を体得し、自分の思いや考えを伝え合い、お互いのがんばりや良さを認め合えるようになれば、それが喜びや自信にかわり、もっとこうしてみよう、誰かに見てもらおう、聞いてもらおうといった意欲につながり、家族へ向けても実践できる力が身につくのではないかと考えられる。



家庭科の目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して、日常生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けるとともに、家庭生活を大切にする心情をはぐくみ、家族の一員として生活をよりよくしようとする実践的な態度を育てる。

本校の5・6年生の家庭科への興味関心を調査したところ、家庭科学習が「好き」「まあまあ好き」という児童が98%だった。どうして好きなのかという理由として、「調理など楽しい」「みんなとつくって楽しい」「おもしろい」という自分にとっての理由の児童と、「だれかのためにつくったりできる」「家でも役立つ」「家でつくれる」といったように、相手を意識した理由の児童もいた。

さらに、調理学習と製作学習、環境学習の中でどの分野が好きかという調査では、65%の児童が調理学習が好きという回答だった。

その反面、授業で学んだことを家で自分から実践したことがあるかという調査に対しては、環境学習に関しての掃除やゴミの分別などの実践はしているが、調理の実践は、わずか20%だった。

「調理が好き」「だれかのためにつくったりできる」という思いをもっているのに、家では実践できない事実が明らかになった。

実践できない要因として、学校では、できなければ、先生やグループの友達が助けってくれたり、本校の傾向として型紙のある教材をつくったりするので、自分一人の力で何とかやり遂げるといった経験が少ないこと、また、与えられた教材でつくるので、目的意識や相手意識が持ちにくいこと、個人対先生になることが多く、友だちと良さを伝え合う場面も少ないことがあげられる。

以上のことから、自分の良さを実感することが少ないため、自信をもつことができにくく、技能的にも不安を抱いたままなので、家庭での実践に結びつかないのではないかと考えた。

そこで、目的意識や相手意識をはっきりさせ、基本的技能を身につけ、一人での製作の時間を確保し、製作した物の良さを伝え合えば、自分の良さを実感し、自信へとつながるのではないかと考えた。

さらに、学校での経験を生かして、家族の一員として生活の中で生かしていくことを願い本テーマを設定した。

IV 研究の内容

1 目指す子どもの姿の具体

①自分の思いや目的意識をもつ

5年：初めてのソーイング

自分が生活でよく使いそうな物、役立ちそうな物をつくろうと目的意識をもたせて取り組ませた。

その目的に向けて、自分からサイズを測ったり、使いやすくするためには、ボタンがいいのかマジックテープがいいのかを考えたり、意欲的につくることができた。

6年：朝食を考えよう

自分の家の朝ご飯のメニューを調べ、ごはんと味噌汁に合うおかず、パンと飲み物に合うおかずを自分の家バージョンで考えさせた。家族が気持ちよく朝をスタートできるように、栄養のバランスを考えたおかずをつくった。一人ずつ作る時間がなかったので、グループで2品選んでつくったが、家に帰ってさっそく、家族のためにつくって、お家の方から「おいしかった」「彩りがよかった」と言った感想をもらうことができた。

②基本的な技能が身につくための場の設定

5年：はじめてみようクッキング

「ゆでる」という調理法のポイントを知った子どもたちは、さらにパワーアップし、「ゆで野菜サラダ」つくりチャレンジした。切り方を工夫しゆで加減を考えることができた。また、違う材料でも、ゆで時間が同じくらいになりそうな材料と一緒にゆでるなど、工夫する姿が見られた。

基本的な技能がしっかりできているから、工夫につながったと考えられる。

6年：洗たくをしてみよう

家で洗濯をした経験のない児童が半数いたが、家庭科の授業で実際に、水の量に対してどれくらいの洗剤を入れるのか、どんな手順で行うのか、どんな汚れの時に手洗いをするのか、注意することはどんなことか、干し方はどうなのか、洗濯機の使い方など基本的なことを学習したところ、今まで家で洗濯経験のない子が、家でさっそく洗濯をして干してたたんでくれたと、喜びの声が家の人から届いた。

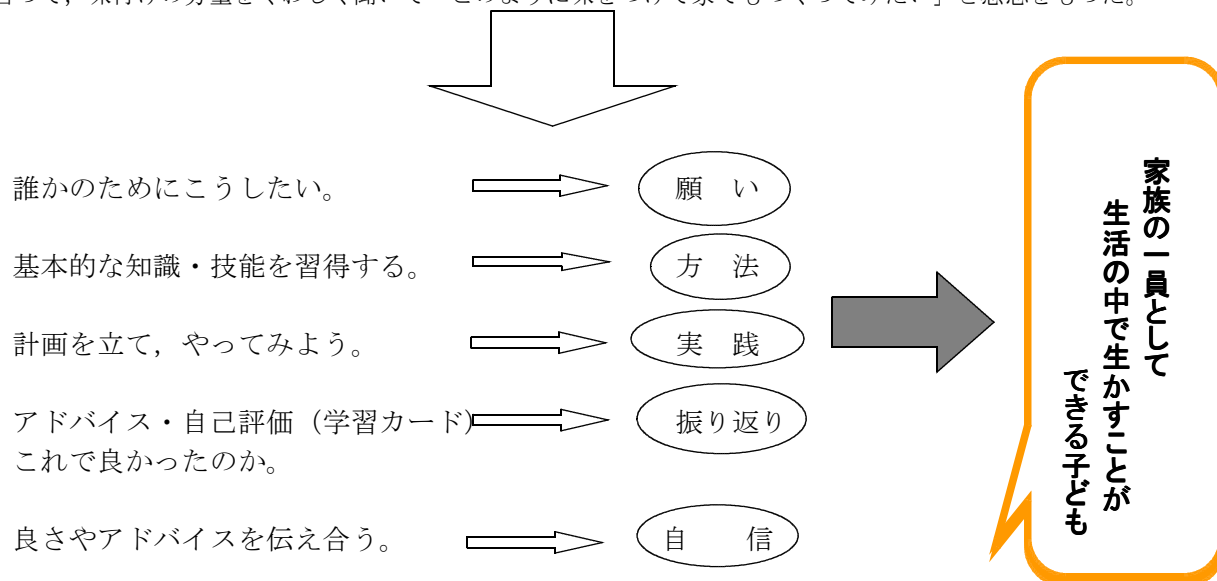
③友だち同士、良さを伝え合う

6年：朝食を考えよう

おかずづくりの場面で、野菜炒めをつくるグループのKさんが野菜を切っていたのを、Iさんが見ていて、「食べやすい大きさで、切り方も上手だった」と発表してくれた。

Kさんは、そう発表してもらえたことで、「うれしかったので、家でもつくってみたい」と言っていた。

また、同じグループの子どもたちが、いつも家で作っているHさんの野菜炒めの味付けがとてもおいしいと言って、味付けの分量をくわしく聞いて「このように味をつけて家でもつくってみたい」と感想をもった。



2 研究の方向

願う姿

・自発的に製作意欲がもてる。
 ・誰かのためにつくりたい
 と願いをもつことができる。
 ・何のためにつくるのか
 考えることができる。

・自信をもって、一人で
 できる技能の習得や
 自分の生活に生かせる
 知識が習得できる。

・目的に合わせて工夫し
 て、自分なりに計画を
 立てる。

・基本的・基礎的な知識・
 技能を思い返し、さらに、
 具体的にどうすればいいか
 見通しをもって考えられる。

・目的意識や自分の思いの実現に向けて
 つくることができる。
 ・問題解決に向けて、既習内容の想起、
 必要な情報収集を行っていくことが
 できる。

・友だちのよさに気づき、自分
 の作品に生かしたり、友だち
 の良さを認め合ったり、アド
 バイスをもらったりすること
 で、達成感を味わい自信がも
 てる。

・さらに、工夫をしてつくり
 たいと考えることができる。
 ・喜びを実感し、意欲をもつこ
 とができる。

・自信をもって、家でも
 実践するようになる。
 ・誰かのために、家族に
 喜んでもらうために、
 実践するようになる。

目的意識・相手意識

学習問題

基礎的・基本的知識
 技能の習得

計画を立てる

学習課題

実習・製作

伝え合い・振り返り

再計画・再実習・再製作

家族の一員として生活の中で
 生かすことができる子ども

課題 (教師)

① ○与えられたキットなどを使うた
 め、目的意識がもてない。

② ○グループでの製作が多い
 ため、一人では自信がも
 てない。
 ○じっくり調べる時間の
 確保ができない。

○何のために製作するのか、キット
 をそのまま使うため、オリジナ
 リティがない。

○目的意識が定着せず、基礎的な知
 識・技能の習得時間を確保できな
 いので、具体的な課題をもたせら
 れない。

○困ったことがおきると、
 自分では、解決できない。

③ ○製作した自分の感想のみ
 で、認め合う時間がもてず、
 自信をもたせることが難し
 い。

①自分の思いや目的意識をもたせること。
 ②基本的な技能が身につくための場の設定をすること。
 ③友だち同士、よさを伝え合うことで、自信につながる。

V 学習指導案

1 題材名 B 日常の食事と調理の基礎

「自分のオリジナル味噌汁をつくって家族に食べてもらおう！」

2 題材設定の理由

今年から始まった家庭科学習で、子どもたちは「ゆでたまご」や「ゆで野菜」を調理する体験をした。実際に自分で調理をしてみて、「ゆでたまごは初めてつくった。家族につくってあげたい。」「今まではお母さんにつくってもらっていたけど、もう1人でもつくれるようになったので、今度1人でつくってみたい。」「野菜のしんもゆでるとやわらかくなり、とてもおいしかった。ソースもおいしくできた。」「初めてだけど、うまく切れてゆでられたので、家でも試してみたい。」といった感想をもち、調理の楽しさに気づき、家でもつくってみたりお手伝いを始めたりしている子どもたちである。

子どもたちに聞いてみると、みそ汁を家でほとんど食べないという子もいる。そこで、みそ汁を題材に取り上げることで、日本の伝統的な食事に関心をもったり、旬の物やいろいろな野菜を使ったみそ汁を知って調理したりすることができる考えた。

前題材「ごはんのみそ汁をつくらう」では、日本の伝統的な食事に欠かせないみそ汁の良さを知り、だしやみそについて調べて実際にみそ汁づくりを行った。本題材では、家族や祖父母に美味しいみそ汁のだしや実について調査を行い、家族が喜ぶ家族のためのオリジナルみそ汁づくりに、一人ひとりが挑戦する。試作のオリジナルみそ汁を班ごとに試食し合い、良さやアドバイスを伝え合う活動を通して、友だちのつくったみそ汁の良さや工夫に気づくであろう。それを基にしてさらに工夫を加えたオリジナルみそ汁を考え、家庭でのみそ汁づくりへの意欲を高めることができるだろう。また、数回の調理実習を重ねる中で、切ったり煮たりする調理の技能を確実に身につけていくこともできると考える。

友だちと試食し合って良さやアドバイスを伝え合ったり、調理を繰り返して行ったりしながら、調理の基礎的・基本的な知識と技能を身につけ、自信をもって生活の中で生かしていこうとする実践的態度を育てることを願って本題材を設定した。

3 題材の目標と評価規準

[目標]

- ・みそ汁の調理に関心をもち、調理計画を立てることができる。
- ・体に必要な栄養素の種類と働きを基に、みそ汁の実の種類・分量を調べたり考えたりすることができる。
- ・調理に必要な用具を安全で衛生的に取り扱い、みそ汁の調理をすることができる。

[評価規準]

家庭生活への 関心・意欲・態度	生活を 創意工夫する能力	生活の技能	家庭生活についての 知識・理解
ア 日本の伝統的な日常食であるみそ汁に関心をもち、みそ汁の調理をしようとしている。	ア 手順や時間の見通しをもって、みそ汁の調理計画を立てたり、自分なりに工夫したりしている。	ア だしの取り方や実の切り方、みその入れ方を考え、みそ汁をつくることができる。	ア みそ汁の調理の仕方を理解している。
イ 家族や友だちに聞いたり教え合ったりして、つくろうとしている。	イ 家族がおいしいと言ってくれるみそ汁にするための工夫を、調理の結果から考え、次への見通しがもてる。	イ 調理器具を安全に取り扱い、後片付けをすることができる。	イ みそ汁の実の切り方や入れる順番、時間、火加減を理解している。

4 指導上の留意点

- (1) 調理の前には手指を清潔にさせておく。調理に必要な身支度をきちんとさせておく。
- (2) 安全面への配慮から、調理台上の整理や用具の置き方、火気、包丁の取り扱いなどに留意させる。
- (3) 様々な種類のみそ汁を知ることができるような班にする。

5 題材展開の概要

学習問題	学習活動	指導・評価	時間
1 自分の家のみそ汁について調べてみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の家でよく食べるみそ汁を書き出してみよう。 ○家族の好みを聞いてみよう。 ○祖父母からみそ汁について聞いてみよう。 ○誰にどんなみそ汁をつくりたいのか決めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の家のみそ汁を思い出して、みそ汁の実やだしなどを書き出してみる。 ・家族にインタビューをして、実の好みについて聞いてみる。 ・祖父母に昔ながらのみそ汁やその実についてインタビューをして聞いてみる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分で調べたり家族や祖父母から聞いたりして、みそ汁づくりに関心をもつことができる。 【関心-ア・イ】 </div>	1
2 みそ汁の調理計画を立てよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分で調べた事を基にみそ汁の実の種類・分量・切り方などの計画を立てよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インタビューや調べたことを基にして、実の種類・分量・切り方などの調理計画を立てさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 実の種類・分量や手順、時間の見通しをもち、みそ汁の調理計画を立てることができる。 【創意工夫-ア】【知識-ア】 </div>	1
3 自分でみそ汁をつくってみよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の立てた計画に沿って、おいしいみそ汁をつくってみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えた計画に沿って、みそ汁をつくる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> だしの取り方や実の切り方、みその入れ方、時間、火加減を考え、みそ汁をつくることができる。 【技能-ア】【知識-イ】 </div>	2
4 友だちのみそ汁の良さを取り入れよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○友だちのつくったみそ汁を食べたり見たりして、良さを見つけて自分のみそ汁に取り入れよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のつくったみそ汁について発表したり、友だちのみそ汁を食べて良さやアドバイスを伝えたりする。 ・お互いのみそ汁の良さを感じ、自分のみそ汁を振り返り、修正したり更新したりする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 自分の家族が喜ぶみそ汁にあった実の切り方や入れ方、取り合わせ方を見直し、家庭で実践する見通しがもてる。 【創意工夫-イ】【意欲-イ】 </div>	1
5 みそ汁をつくって家族に食べてもらって報告会をしよう。	<ul style="list-style-type: none"> ○家でみそ汁をつくって食べてもらった感想などを発表し合おう。 ○自分でつくったみそ汁の学習を振り返って、まとめをしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家でオリジナルみそ汁をつくった感想や家族に食べてもらった感想を発表し合う。 ・友だちのみそ汁の良さを感じることができる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> みそ汁に関心をもち、家族へおいしいみそ汁をつくったことを発表し合うことができる。 【創意工夫-イ】【技能-イ】 </div>	1

6 本時案

(1) 主眼

オリジナルみそ汁の試作をした子どもたちが、友だちのみそ汁を「実がちょうどよく煮えているか」「願いにあった実の選び方はどうか」に着目して試食し、お互いの良さやアドバイスを付箋を使って伝え合うことを通して、自分の家族が喜ぶみそ汁にあった実の切り方や入れ方、取り合わせ方について見直し、家庭で実践する見通しをもつことができる。

(2) 本時の位置（全6時間扱い中第5時）



(3) 指導上の留意点

- ・安全面への配慮から、火や温まったみそ汁の取り扱いに十分注意するように伝える。
- ・各自のオリジナルみそ汁の計画書を掲示し、誰でも見ることができるようにしておく。
- ・本時では、だしや味噌の種類にはこだわらず、実の煮え方と選び方について取り上げていく。

(4) 展開

段階	学習活動	予想される児童の反応	指導・評価	時間	
課題把握	1 本時の学習問題を確認する。	・みんなのみそ汁を食べてみたいなあ。	○学習問題を提示し、本時の手順を確認する。	10	
	学習問題：実の切り方や入れ方、取り合わせ方を見直し、家族が喜ぶ最高のみそ汁を考えよう。				
		・実は何が入っているだろう。 ・どんな切り方で、煮え方はどうかな。	○実の煮え方、実の選び方に注目して、友だちのみそ汁の良さを確認することを伝える。		
学習課題：友だちのみそ汁を試食し、実がちょうどよく煮えているか、願いにあった実の選び方はどうかについて良さやアドバイスを伝え合い、自分のみそ汁に生かそう。					
究明・実践	2 課題を意識しながら班ごとにお互いのみそ汁を試食し、意見を伝え合う。	・まず自分のみそ汁を飲んでみよう。 ・順番にみそ汁を食べてみよう。 ・ぼくは、家族が好きな大根を入れました。 ・実の種類は、旬の野菜をたくさん使いました。 ・切り方は、味がしみやすいように薄く切りました。 ・〇〇さんのみそ汁は、よく煮えていてとても	○自分のみそ汁を最初に飲み、実の切り方・選び方・入れ方について感想を書く。 ○自分がどんなみそ汁にしたのかを班の友だちに伝えてから、試食をする。 ○家族の願いと実の種類、切り方や大きさ、厚さについても伝えるようにする。 ○友だちのみそ汁を試食したら、すぐに感想を学習カードにまとめさせる。 ○班の友だちの試食が終わったら、付箋に伝えたいことを書き、交換する。 ○どんなことを付箋に書いたらよいか迷っている児童には、実の種類は何が入っていたか、実の切り方や厚さはどうだったか、もう一度振り返らせる。	20	

		<p>おいしかったです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇さんは、旬の実が入っていて良いと思います。 □さんは、実の厚さがそろっていて、しっかりと煮えていました。 	<p>○クラスの友だちがどんなみそ汁をつくっているのか見てまわる時間をとる。</p> <p>○お互いの良さを感じ合えるように、他の班の友だちの書いた付箋も見てまわるように指示する。</p>	
整理・発展	3 今日の実験でわかったことをまとめ発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 計画表では、切り方がいちょう切りだったけど、○さんのせん切りがおいしかったから変えよう。 友だちのみそ汁に入っていた実がおいしかったから自分のみそ汁にも入れてみたい。 友だちのみそ汁も良かったけど、やっぱり自分のみそ汁がおいしかった。 ○さんの実の切り方がそろっていて、味がしみていたから、自分もそろえたい。 □さんの実の煮え具合がちょうどよかったから、入れる順番も確認したい。 	<p>○友だちのみそ汁の良さやアドバイスを参考にして、切り方・入れ方・選び方について、修正したり更新したりすることを計画表にメモし、それを学習カードに書かせる。</p> <p>○何人かに発表してもらい、次の家庭調理への実践意欲を高める。</p>	15
		<p>自分の家族が喜ぶみそ汁にあった実の切り方や入れ方、取り合わせ方を見直すことができる。 【創意工夫-イ】 家庭で実践する見通しがもてる。 【意欲-イ】</p>		

(5) 実証の観点

- ①「実の煮え方」と「願いにあった実の選び方」に着目させ、よさやアドバイスを伝え合ったことは、自分のみそ汁を見直し、家庭で実践する見直しをもつことに有効であったか。
- ②自分の願いをもって一人ひとりに調理させたことは、家庭で実践する自信をもたせるのに有効だったか。